

都議会公明党『3つの挑戦』が実現へ

議員報酬20%削減! 全会一致で条例可決!



○「身を切る改革」を都議会公明党がリード!
第1回定例会初日の2月22日の都議会本会議で、議員報酬20%削減など都議会公明党が提唱した「身を切る改革」を具体化する条例を、全会派の共同提案というかたちで全会一致で可決、成立させました。

①議員報酬の20%削減

※議員報酬20%カットは、新年度が始まる4月から確実に実施できるよう、1年間の特例としました。公明党は20%削減の恒久化をめざし、引き続き取り組みます。

②政務活動費を月額10万円減額し、収支報告書と領収書などの写しをインターネット上で全面公開。

※政務活動費とは議員の調査研究などを支援するための経費です。これまで都議会では、政務活動費の用途を知るには、都庁に出向かないと閲覧できませんでした。今後は、インターネットで全面公開し、不正防止へガラス張りになります。このことにより全国トップクラスの透明度が実現します。

③本会議や委員会などに出席するたびに、旅費の代わりに定額支給されている費用弁償の廃止(島部在住の議員のみ交通費と宿泊費の実費を支給)など。

※加えて、議会内のルールで定められていた、在職25年および30年に達した議員への記念章や記念品授与を廃止。在職30年に達した議員の肖像画を議事堂内に掲示する制度もなくします。

私立高校授業料の 実質無償化を実現へ!

○東京都は平成29年度から、年収約760万円未満の世帯を対象に、私立高校の授業料を実質無償化します。

具体的には、都の特別奨学金(返済不要)を拡充し、国の就学支援金と合わせて、都内私立高校の平均授業料である年44万2000円まで受け取れるようにします。対象は、都内に住む私立高校生の3割に当たる約5万1000人。都外の私立高校に自宅から通う生徒も含まれます。

※都議会公明党は、今後さらに特別奨学金の対象となる世帯年収を「910万円未満」に引き上げることをめざします。

※また、私立高校の入学金の平均額が約25万円に上っていることから、都の入学支度金貸付制度(無利子)の貸付額も現行20万円から25万円に引き上げられます。



世界に誇れる バリアフリー化の推進

JR新小岩駅快速線ホームに ホームドア設置へ

○ホームでの列車との接触や転落事故を防止する対策として、JR新小岩駅の快速線ホームに「ホームドア」を設置することが決定し、2月から工事を着工しています。

○都営新宿線
江戸川区内の全駅に平成30年度中に設置します。

(東大島) ↔ (船堀) ↔ (一之江) ↔ (瑞江) ↔ (篠崎)



都営大江戸線のホームドア

公立学校などにおける トイレを洋式化



○家庭でのトイレは洋式が主流のため、児童・生徒に和式に対して苦手意識などがあることや、災害時に、高齢者や身体障がい者が学校を避難所として利用する際に不便なことから、トイレの洋式化を推進します。

TOKYO 改革前進への東京都予算へ

東京都が1月25日に発表した平成29年度予算案には、「待機児童の解消」「防災・減災対策」など都議会公明党の主張が随所に反映されています。ここでは予算案の一部を紹介します。

防災・減災対策

女性視点の防災ブックなど作成 3億円



- 女性視点の防災ブックの作成に向け、女性スペシャリストによる編集会議を立ち上げ、避難所運営や液体ミルクの備蓄、活用などについてまとめる。加えて、視覚障がい者らに配慮した音声コードや点字付きブック、外国人向け英語版も導入
- 防災ブック「東京防災」の大活字版を作成

女性防災人材の育成 3,000万円

- 女性防災リーダー育成に向けたプログラムの策定や、きっかけづくりとなるシンポジウムなどを開催

福祉優先都市をリード

シルバーパス交付 175億6400万円

- 都内に在住する高齢者の健康寿命の増進へ。70歳以上の希望者が都営交通(都バス、都営地下鉄、都電、日暮里・舎人ライナー)や都内の民営乗合バスに自由に乗車できるシルバーパスを交付

待機児童の解消へ

保育士の給与引き上げ 244億500万円

- 保育士等キャリアアップ補助(従来の改善分と合わせて一人当たり4万4000円相当の賃金改善)。幼稚園教諭と同水準に



保育の受け皿を整備 282億円

- 民有地を活用した保育所等整備促進税制(土地の貸主に係る固定資産税・都市計画税を減免=23区)など